



After

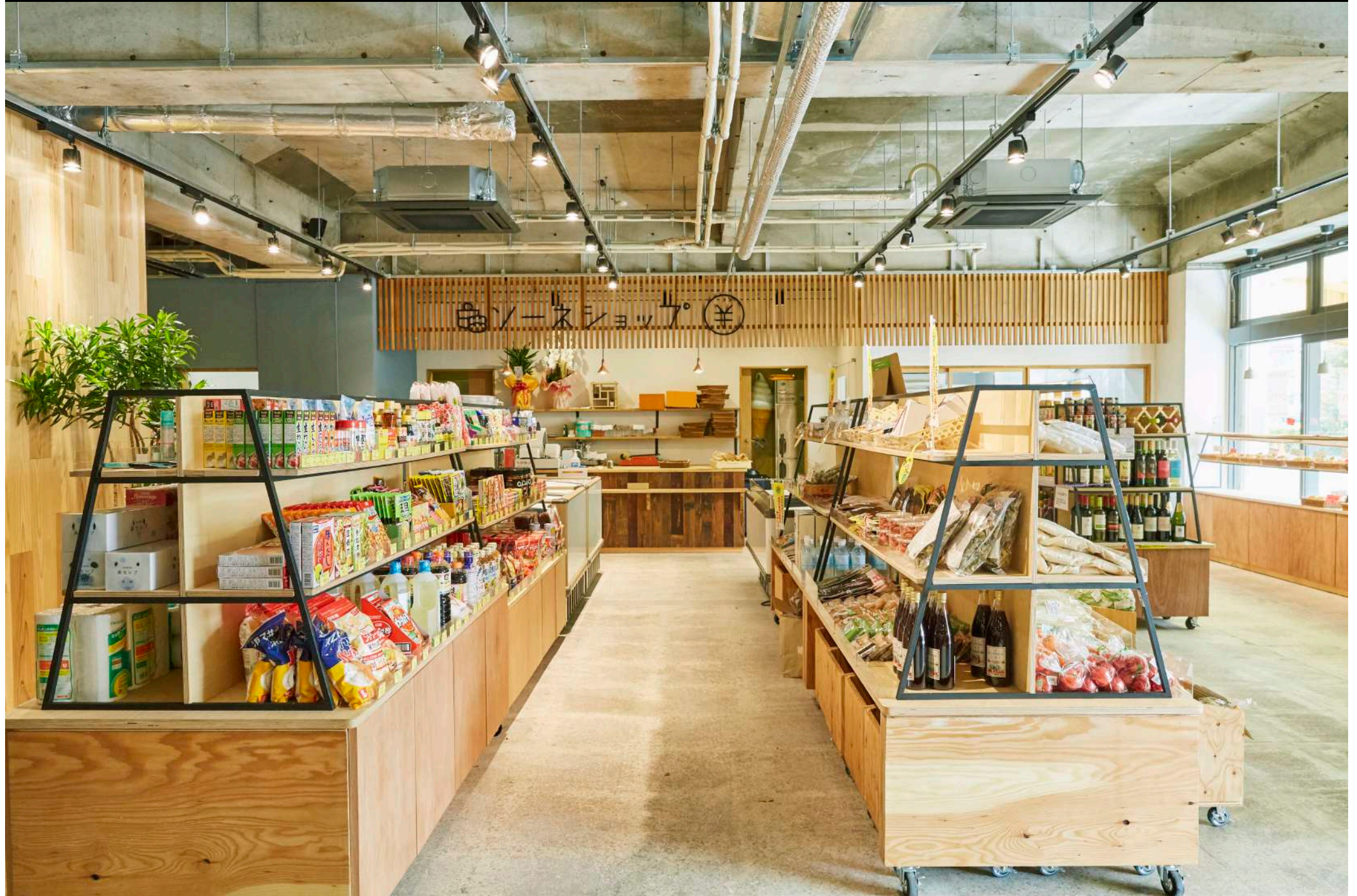
「わっぱん」の販売



枝豆チーズ
STONE 100

ハムコーン
STONE 80

After



愛知県内の障がい者事業所でつくった商品を販売する

アンテナショップ

アンテナショップ

みんなのわ

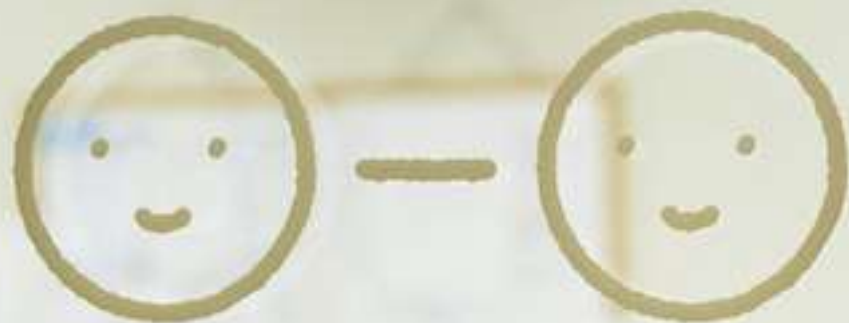
流通ルートが難しい県内120箇所の事業所の商品を
約40カ所分を順次入れ替えて販売している

地域のスーパーや銀行の一角で販売するルートもできた

居住支援法人の指定を受け「ソーネ居住支援センター」設置

2018年9月開設

(住宅セーフティネット法に基づく住宅確保要配慮者の居住支援)



生活・仕事・福祉

地域なんでも相談所

いま、私(たち)がいる場所

共に働く (共働事業所)

ワークショップすずらん

ベーカリーハウスわっぱん平安

わっぱりサイクルセンター

エコステーション

わっぱ知多共働事業所

わっぱのごはん

ソーネ各事業

共に暮らす (共同生活体)

生活体
名古屋市内:14ヶ所
知多郡内:1ヶ所

生活援助

生活援助ネットワーク
(介助者派遣、養成研修)

生涯活動センター
わっぱーれやまぐち

北区障害者基幹相談支援センター

すずらん生活支援センター

知多南部相談支援センター
わっぱる

ひろばわっぱる

就労援助

なごや障害者
就業・生活支援センター

尾張中部障害者就業・
生活支援センター

なごや職業開拓校

ワークナビふくえ

商品の供給

ソーネおおぞね

生活困窮者自立支援事業
(共同事業体)

仕事・暮らし自立サポートセンター大曾根

総合相談

NPO法人
かくれんぼ

NPO法人
からし種

NPO法人
オレンジの会

みんなの「居場所」をつくる

居場所って？

えんがわ・たまり場・拠点・コミュニティカフェ・サードプレイス・・・
いろいろ呼び方はあるが

人と人をつなぐ場所

地域や社会とつながる機会が用意されている場所

誰でも、目的がなくても、そこにいることができる場所

(本来の公共の場の意味)

- ・人と人が交差する自由な空間
- ・あらゆる情報の交差点
- ・友達をつくる（人的ネットワークを広げる）
- ・もっと素敵な生き方にチャレンジするきっかけを持つ場

(長寿社会文化協会のコミュニティカフェの定義より)

一方、

これまでもカフェやレストランなどでも、人と人、人と地域や社会と、
出会いつながる店や場はたくさんある

さらに、居場所の役割は多種多様に広がっている

NPO組織
情報発信
活動の場

町内会・自治会
たまり場
お祭り

産直販売
食育・食堂
共同キッチン

子育てママ
育児相談
子ども食堂

高齢者
認知症カフェ
介護予防

クラフト作品など
展示販売

障がい者
高齢者・若者の
働く場

わたしたちの「居場所」とは・・・
地域の課題解決や魅力ある地域づくりに向けて
「居場所」を共同してつくりあうことで
共生する意識を育て仲間をつくっていく「活動」そのものが「居場所」

居場所がもっている力

1. 居場所にくる → 知り合いができる

→ 存在を認め合う

2. 参加する、活動する、働く

→ 仲間ができる、課題が自分のことになる

→ エンパワメント・インキュベーション

→ 与えられる人から主体者に

3. 地域のニーズ・資源（ひと・組織・文化・・・）とつながる

→ 中間支援的機能

（相談・情報提供・コーディネート・ネットワーク・計画提案、アドボカシー）

→ 地域の持続的な展開に向けて、次につなぐ

「居場所」づくりを通じた気付きと課題

●地域の多主体との連携はおもしろい

1. 多様な人たちと関わりあうことで次の展開が生まれる様子を見るのは楽しい
 - ・ 準備の時、検討中、計画時、完成後から現在（構想から実践へ移行）
わっぱの会のネットワークの力と想いもつかないつかない新しい繋がり
2. ゆるやかにつながっていくこと（焦らずじっくりと）
 - ・ カフェによく集まっているママたちがすぐに主体的に動くわけではない
参加のプログラムを組み立てる
3. スタッフや関係者の「市民意識」（これからの社会への意識の共有化）
4. 施設利用者・登録者から運営、参画者（利用者・応援者から主体者へ）
 - ・ ネットワーク・プラットフォーム・コンソーシアム（事業連携へ）・・・
5. 現在のセンター機能からハブ機能への移行 地域の居場所との連携
 - ・ テーマコミュニティと地縁コミュニティとの連携

<ソーネおおぞねから見た課題と次に考えていきたいこと>

6. 多様な事業者が連携した共同の社会的事業が活躍できるイメージの共有
 - ・ソーネしげん、フードリサイクル等現行システムからの転換に向けた活動
 - ・SDGsなどの計画とその取り組みとの連携 (市民電力・労働者協同組合等)
 - ・社会的連帯経済、協同労働を展望を示す活動
7. セーフティネットを補完する仕組みづくり
 - ・地域共同基金の設立 (ソーネ基金) 2019年11月2日設立 グラミン日本との連携
生活資金貸付の実施、フードバンクからの食糧、生活再建支援
8. 共に生きる暮らしを支える「居場所」づくりと住まいの貧困への対応
 - ・共生の住まいづくり (現在取り組み中) (障害者シェアハウス・母子世帯の住まい)
 - ・ソーネ居住支援センターの相談窓口設置 (2018年6月 居住支援法人設立・認可)
(身元保証、債務保証の仕組みを検討中)
9. 子どもの貧困への対応や多文化共生社会に向けての取り組み
 - ・こども食堂から共生食堂へ (現在月1回500食の弁当を配布)
経済的貧困・関係性の貧困・経験の貧困への支援
 - ・外国にルーツを持つ人の支援NPOとの連携
10. 公共施設、公的セクターの資産を市民が利用するための課題への対応
 - ・公共施設の維持管理と長寿命化・市民による利用
(既存近隣住区と公共施設再配置への対応)

社会的包摂のテーマから居場所づくりを見て、いま気になること 1

1. まちづくり市民事業をプロジェクト型で行う危うさ

- ・ コミュニティビジネス、地域密着といいながら、（営業）エリアが狭いだけの事業か
- ・ 起業家支援の話になりがち、あるいは空き家・空き店舗対策としての居場所
- ・ 暮らしからプロジェクトを考える→地域での協同の力を信じられるかをテーマにした
→都市のもつ集積の力、既存のネットワークなど地域資源の掘り起こしと展開可能性

2. まちづくりの活動・事業は心踊るワクワクする取り組みか

- ・ ひとりのワクワクだけではなく「共感できる仲間」がいるか？
- ・ 共生社会への道 市場経済の論理からの脱却をどう探るか
- ・ （できれば）課題から出発することはしないようにしたい
- ・ 実務として（理論ではなくリアリティとして）取り組んだが、なぜそうするのか？
→人間の根源的な心地よさを実感（見田宗介「現代社会はどこに向かうのか」虹を見て心躍る価値）

3. 競争原理だけでは暮らしは支えきれない

- ・ 「稼げるまちづくり」だけが正義ではない
- ・ コミュニティの再編と「エリアマネージメント」の課題の認識
（行政の責任・民主的運営、参加の保障・財源、負担金と税の原則との関係など）
- ・ 共生住宅・住宅のベーシックインカム（家賃補助）などセーフティネット住宅の在り方
- ・ 賃貸・所有というだけではない住まいとは（住宅組合・区分所有・使用権など・・・）

4. 都市再編の動きの中で、改めて居場所づくりの意味を問い直し、地域での暮らしと環境をみつめる

- ・ 地域（都市）の中で幸せに暮らす原理と構造
 - コミュニティ（地縁・テーマ）や社会資源のつなぎ方（協同・連携のあり方）
- ・ 拠点、居場所、組織、仲間、学校、店舗、病院、広場・・・
 - これまでの都市の構成要素と、これからの地域における新しい装置は何か？
- 新しい地域社会の基本ユニットとは何か、この空間原理をどうつくっていくのか？
- ・ 都市の大きなスケールと経済圧力に圧倒されそうな中での価値の転換の必要性

5. 住まいの価値は、地域の居心地の良さ

- ・ 私（たち）は住まいとまちをどのような関係を持つようにするのか考えてきたか
- ・ 安全なはずの住まいの内側で起きていること 家庭内暴力・ネグレクト・貧困・無縁死・認知症
- ・ 住まいの内と外の世界との関係性をどのようにつくっていくのか
 - 「居場所づくり」は住まい・コミュニティなど暮らしを包括して考えることから
- 住宅政策、コミュニティ計画、福祉保健計画などを統合した「地域居住計画」
- 住まいと（個人と）地域を「つなぐ場」を創造していくという職能・事業の可能性
 - 非営利協同の事業組織・社会的事業体の展開への期待
 - （住民・権利者主導だけでは困難な地域における支援組織・事業組織の組成）